

2025社会学研究所報告会報告書

(2025年7月15日)

開催日時	2025年6月19日（木） 16:30～18:00
開催場所	板橋キャンパス3号館1階 113教室
出席者	スチュワート、塚本、佐藤、豊泉、小湊、井島、鈴木日菜、上野、豊吉（9名）
会議概要	＜2025年度＞社会学研究所主催 報告会 ※2025年度より名称変更 第1回 報告者 Ronald Stewart
内 容	今年度第1回は、昨年度に海外研修にて研究活動を行ったスチュワート氏によって報告された。複数の研究発表があったが、その中で2つの研究が報告された。 ひとつは、女性の職業漫画家として、表に名が出てくることが殆どなかった「加藤武子」とその後の女性漫画家に焦点を当てた研究であった。北澤楽天のもとで初期から活動を開始した漫画家であり、後に女性の職業漫画家としては長谷川町子と加藤武子の2人だけであると紹介された人物である。北澤楽天が制作した、「TOKYO PUCK」では多くのアシスタントがいたが、北澤は募集広告に性別を含めなかったことから、数人の女性アシスタントが誕生していた。加藤武子は、1932年から朝日グラフでレギュラー連載を持ち、後に朝日新聞でも掲載していた。結婚後が、戦争や夫の病気などから漫画を描けなかった時期があった。少女漫画の研究は多くあるが、女性漫画家に焦点を当てた研究は殆どなく、本研究の意義が感じられた。 もうひとつは、漫画の技術と形式に関して北澤楽天に焦点を当てた研究である。北澤の漫画では、コマでの言葉のない表現から吹き出しを用いて作成されるようになった。1920年頃のNew Yorkで描かれたものを取り入れて、北原流としていった。無声映画の弁士のような役割を持ち、それが漫画となったイメージであると説明された。 報告後の質疑応答では、女流漫画家に注目したきっかけについてや、漫画に対する評価た地位の海外対比、資料収集など多岐にわたり活発に行われた。
備 考	次回は、2025年7月17日（木） 16:30－

